

D-18 離婚と家族関係についての一考察  
(わが国と欧米諸国の離婚原因を比較して)

光華女子短大 本田 弘子

1. わが国では協議離婚が、離婚原因として一番多い。そして家庭が破壊されて行く時、家族関係の調整がもう少しなされてもいいのではないかと考えられる。もちろんわが国の経済的条件が下部構造的問題として、家庭破壊の原因となることもあろう。しかし、旧来の古い「家」制度で培われた家族制度の上に、民主化の時代になると同時に、いち早く双方の合意のみで成立する協議離婚が認められるや、家族関係の急な解剖を急ぐ社会現象が見られるというのも、現代の不安の上に立つ家族感情のひずみの表われではなかろうか。そこに重点をおき、考えて見た。

2. ヨーロッパ諸国では、ほとんど裁判上の離婚しか認めていない。アメリカにおいてでさえである。しかし、離婚率世界一のアメリカとわが国とは、対象の国として考えられる。そうした外国を見ながら、比較考察した。

3. 歴史的背景から由来する家族感情「家」の和の個人間の融和の優越の残滓、そこからくる意識下の夫婦相互の役割への期待のくいちがい等に相俟って、協議離婚という制度がひいては、離婚という現象に早めて行く場合もあると思われるのである。